



(1,500円)

# 実用新案登録願 (A)

昭和46年2月15日

特許庁長官 佐々木 学 殿

1. 考案の名称 オーバーフローデイツフ槽

2. 考案者 住 所 東京都新宿区牛久町大字田宮  
氏 名 藤 野 三 郎

3. 実用新案登録出願人 160

住 所 東京都新宿区須賀町9番地5号  
氏 名 株式会社 弘 泰 恒 夫  
(代表者)

4. 代理人 7/03

住 所 東京都中央区日本橋通2丁目2番地  
氏 名 (2367) 弁護士 丹 生 藤 吉

5. 添付書類の目録

(ほか3名)

① 明 細 書	1 通
② 図 面	1 通
③ 委任状	1 通
④ 願 出 願 書	1 通
⑤ 出 願 料 金 領 収 書	1 通

47-0024-01

## 公開実用 昭和47- 6024

明 細 書

1 考案の名称 オーバーフローデイツブ槽

2 実用新案登録請求の範囲

外槽と、この外槽内に装着した内槽を有し、一方の外槽にはヒーターを内装しさらにモータで駆動されるポンプを内部に設けたポンプハウジングを配装し、このポンプをもつポンプハウジングは、前記した内槽内と導管を介して連絡させ内槽の上縁で半田をオーバーフロさせてなるオーバーフローデイツブ槽。

※ 考案の詳細な説明

この考案はデイツブ槽の改良に係るものである。

従来のデイツブ槽は一槽式のため、半田付けの際半田槽表面に発生した酸化物を除去してから半田付け作業を行なわなければならない。また短時間の場合でも表面は薄い酸化物ができるので作業は非能率的である。更に半田付使用面積が半田槽

(1)

47-6024-02

BEST AVAILABLE COPY

面積より相當限少する欠点がある。

この考案は前記従来の欠陥を除去したものであつて、半田槽は二槽からなり、内槽の表面に発生した酸化物はオーバーフローして外槽に流れ落ち、内槽表面は常に清浄な半田面を保持し、更に半田槽の液面表面張力による浮上りで表面槽一杯に使用でき、作業の向上を計ることを目的としたものである。

以下この考案に係る、オーバーフローディップ槽の一実施例を図面について説明する。

1 は半田槽の外槽で、該外槽1は、第2図に示すように内部の両側にヒータ2, 2を配装し、さらにスクリーンプンプ3を内装したポンプハウジング4を外槽1に取付けた支持片5によつて横設してある。

また外槽1には内槽6を槽内に装着してある。

(10)

47-6024-03

BEST AVAILABLE COPY

この内槽 6 の上縁 6' は外槽 1 の上縁 1' より僅かに突出して取付けられ、しかも内槽 6 内には、一端を前記ポンプハウジング 8 に連絡させ、他端の下面に多数の流出孔 7 を穿つた半田流動導管 5 を位置して、外槽 1 内の半田をポンプ 3 を介して吸込み導管 5 を経て流出孔 7 から内槽 6 内に流動させる。

前記ポンプハウジング 8 は、内部に回転軸 9 を縦設すると共に導管 5 と連絡する部分の上部に仕切板 10 を設けてあり、さらにハウジング 8 の上部には前記回転軸 9 を支持する軸受 11 を、外槽 1 に取付けた取付板 12 によつて支持させ、この軸 9 の上端は、プーリ 13 を取付けてモータ 14 からのプーリ 13 とベルト 15 で連絡させてある。

又、軸 9 の下部には、前記したようにハウジング 8 内でスクリーンプンプ 3 としてある。

この考案は、前記した構成で、外槽 / 内の半田は、モータ<sup>14</sup>の駆動でポンプ<sup>3</sup>で吸込まれハウジング<sup>6</sup>内を吸込まれた半田を導管<sup>8</sup>を通して流出孔<sup>7</sup>から内槽<sup>5</sup>内に入れる。この内槽<sup>5</sup>内に流出した半田は内槽<sup>5</sup>の上縁<sup>9</sup>からオーバーフローし、半田面上にできる酸化膜は、外槽 / 内に流動し常に内槽<sup>5</sup>の半田面は半田付できる状態にすることができる。従つてこの半田を繰返して循環して使用するものである。

上述のようにこの考案によるオーバーフローデイツブ槽は外槽<sup>1</sup>と内槽<sup>5</sup>を設け、さらに外槽<sup>1</sup>と内槽<sup>5</sup>をスクリューポンプ等のポンプ<sup>3</sup>を介して連絡して外槽 / 内の半田をポンプ<sup>3</sup>で内槽<sup>5</sup>内の下部から流出させ、更に内槽<sup>5</sup>の上縁から外槽 / 内に溢出させるようになつていたので、常に内槽の上部半田面は酸化物が堆積することがないの

(4)

47-6024-05

BEST AVAILABLE COPY

## 公開実用 昭和47- 6024

で、従来のように半田付時に振動く煩さがない。  
更に半田面は振面振力で浮き上がっているのもので、  
内槽上面全部の面積で半田付できるので作業を向  
上させることができる特徴がある。

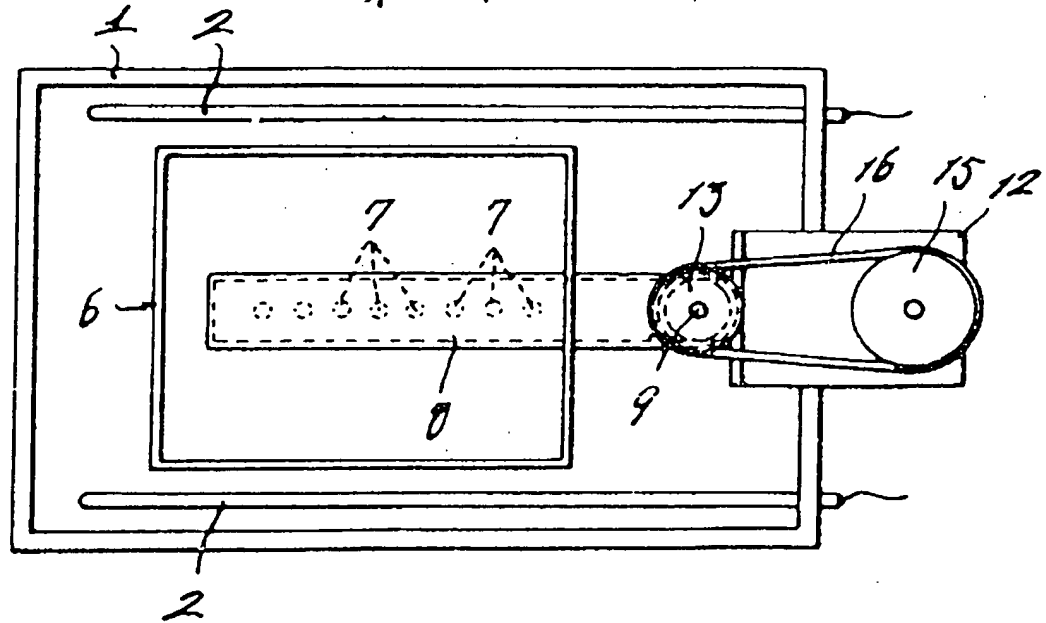
### \* 図面の簡単な説明

図面はこの考案に係るオーバーフロタイプ槽  
の一実施例を示すもので、第1図は縦断正面図、  
第2図は平面図、第3図は第1図A-A'線の断面  
図である。

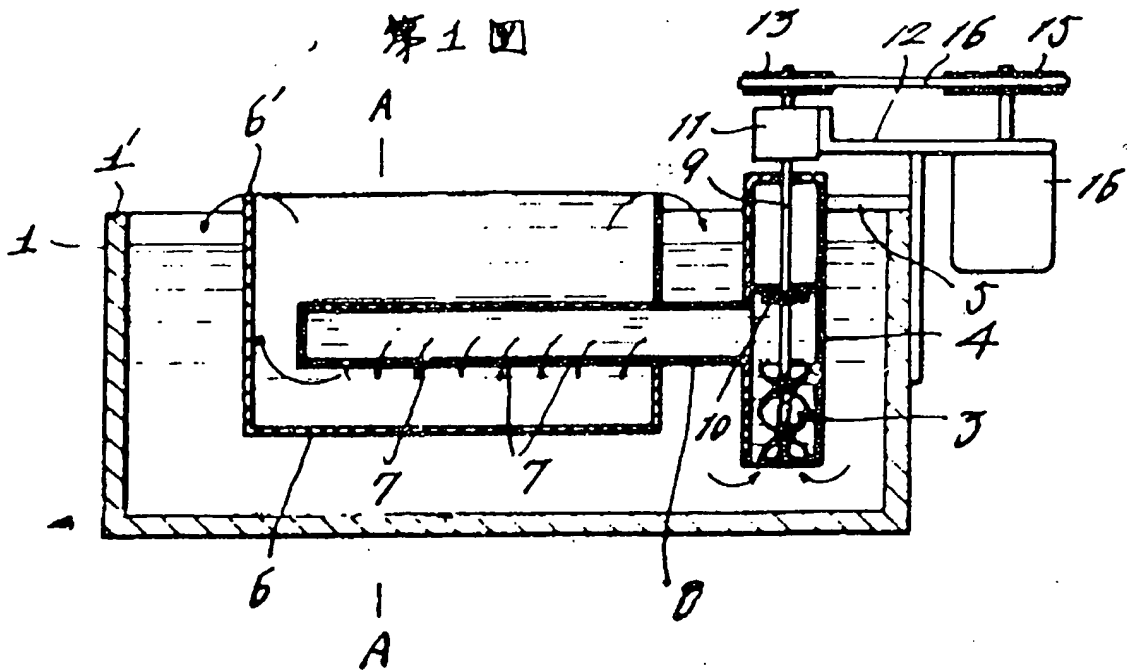
1…外槽、2…ヒータ、3…スクリーンプ、  
4…ポンプハウジング、5…内槽、7…流出孔、  
8…流動導管、

実用新案登録出願人	株 式 会 社	弘 輝
代 理 人	丹 生 藤 吉	
同	安 藤 政 一	

第2図



第1図

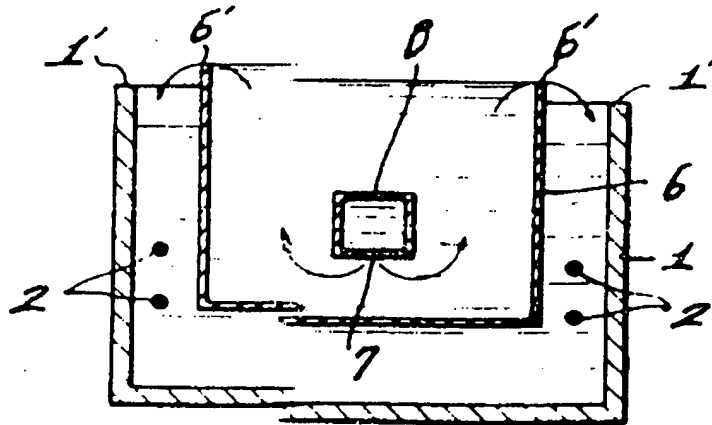


實用新案 特許合社 弘 類

47-6024-C7

BEST AVAILABLE COPY

第3図



輝 弘 社 公 限 有 輝  
 出 版 人 輝 弘 社 公 限 有

47-6024-08

BEST AVAILABLE COPY



前記以外の

出願人

又は代理人

(1)

(1)

出願人

〒□□□□-□

代理人

東京都中央区日本橋通2丁目2番地

(2297) 弁理士 安 藤 政

(5923) 弁理士 上 橋 秀 夫

(7419) 弁理士 江 藤 剛

電話 (271 3751) 基(代表)

47-6024-09